

大麦栽培管理情報（第1号）

平成29年9月
アルプス農協管内農業技術者協議会

大麦の収量・品質向上のポイントは、**初期生育の確保**です！
排水対策の徹底により、10月上旬までの適期播種を行い、
高収量で高品質な大麦の生産を目指しましょう！



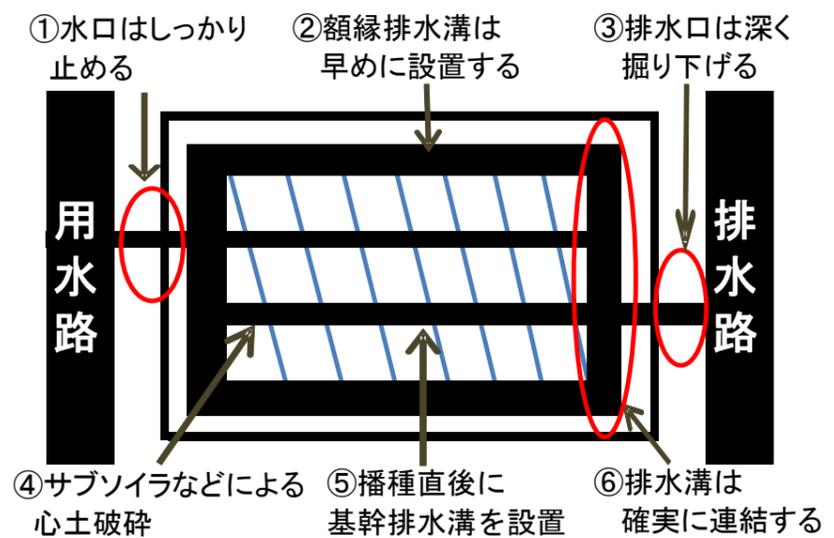
大麦栽培の基本は
排水対策の徹底!!

1 圃場準備(排水対策の徹底)

大麦は生育期間を通して湿害に弱いため、排水対策や碎土率の良し悪しが、その後の生育に大きく影響します。特に今年は8~9月の降水量が多く、圃場の乾きが遅れています。稲刈直後から次の排水対策を確実に実施し、**速やかに圃場を乾かしましょう。**

排水対策のポイント

- 水口はしっかり止める。
- 額縁排水溝は、幅30cm、深さ20cm以上のしっかりとした溝に仕上げる。
- 排水口を低く掘り下げるとともに、溝に水が溜まらないよう排水溝を確実に連結する。
- 透水性の向上のため、心土破碎を実施する。
- 播種直後に基幹排水溝を設置する。

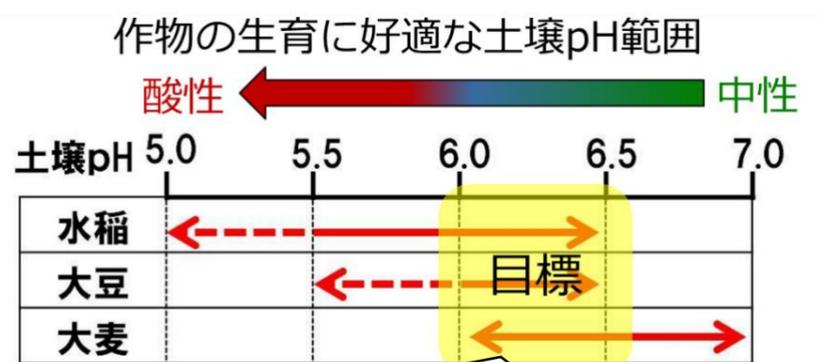


2 土づくりの実践と的確な基肥施用

土づくりの実践や的確な基肥の施用により、適正な生育量に誘導しましょう。

施肥のポイント

- 石灰質資材の施用で土壌 pH6.0以上を確保する。
- 堆肥等の有機物を積極的に施用する。
- 施肥方法に応じた的確に基肥を施用する。
- 根域を確保するため、15cm以上の深耕を徹底する。



大麦は特に酸性土壌に弱い!!

■ 施用量の目安

施用目的	資材名	10a当たり施用量	備考	
酸度矯正	粒状貝化石	150~200kg	土壌診断の結果、酸性が強い場合は多めに施用	
地力増強	発酵鶏ふん	100~150kg		
基肥	一発	LP大麦48号	45kg	原則、追肥は不要
	分施	ハイマックス燐加安 444	40kg	

3 種子準備～播種

(1) 種子の準備

種子更新を徹底するとともに、病害の発生を防止するため、必ず種子消毒を実施しましょう。

消毒方法	処理方法
薬剤処理	乾燥種子 10kg 当たり ベンレートTコート 50g を均一に粉衣
循環式催芽器による温湯浸法	45℃の温湯に入れ、2時間 30分浸漬 (浸漬時間厳守)

(注)温湯での消毒後は、陰干しで十分に乾燥させる。

(2) 耕起～播種

・砕土率向上による出芽・苗立ちの安定のため、耕起作業は、土の乾きを確認してから実施するとともに、耕起～播種・作溝までの一連の作業を1日で行いましょう。

・畦幅は3m以内とし、幅が30cm、深さが20cm以上のしっかりした溝を設置するとともに、排水口に確実に連結しましょう。

・ドリル播きの場合、湿害を避け出芽・苗立ちを揃えるため、播種深度が3cm程度となるように調整しましょう。

・目標の苗立本数を確保するため、播種の時期や方法に応じた適正な播種量を厳守するとともに、播種作業は、10月上旬までに行いましょう。

砕土率40%以下



砕土率が低いと
出芽・苗立ちが不安定
になり、揃いが悪い

砕土率60%以上



砕土率が高いと
出芽・苗立ちが安定
し、揃いが良い

【播種の時期と量の目安】

播種時期	目標苗立数 (㎡当たり)	播種量の目安 (10a 当たり)	
		ドリル播	表面散播
9/26～30	140本	6.0 kg	6.5 kg
10/上旬	150本	6.5 kg	7.0 kg
(10/中旬)	(200本)	(8.5 kg)	(9.0 kg)

4 播種後の雑草防除

雑草が多発すると肥料成分が雑草に奪われ、大麦の生育に影響が出るとともに、病害発生の原因にもなります。

雑草発生が多い圃場では除草剤を的確に使用し、生育量を確保しましょう。

<除草剤を使用した圃場>



<除草剤を使用していない圃場>



【除草剤の使用時期と量の目安】

除草剤名	使用時期	10a 当たり散布量	使用方法	適用雑草
トレファノサイド乳剤	播種後発芽前 (雑草発生前)	300mℓ (希釈水量 100ℓ)	土壌表面 散布	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、 キク、アブラナ科を除く)
トレファノサイド粒剤 2.5	播種後発芽前	4～5kg		
ボクサー	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～ 雑草発生始期)	500mℓ (希釈水量 100ℓ)		一年生雑草

(注) 表面散播した圃場では使用しない

除草剤使用上の留意点

- ・ 土壌が極端に乾いていると効果が劣るので土壌水分が適正な時に散布する。
- ・ 散布直後に大雨にあうと薬害のおそれがあるので、天候を見極めて散布する。
- ・ 種子が露出していると薬害のおそれがあるので、砕土率を高めるとともに、播種深度3cm程度を目安に、確実に覆土するよう注意する。